
異世界の彼方で...

七瀬美華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界の彼方で…

【Nコード】

N5605B

【作者名】

七瀬美華

【あらすじ】

第1話の続きです。目覚めた時、姫凜は見知らぬ場所にいた。

第二話：異世界の地で…

意識を失ってから一体、どれだけの時間が、経ったのだろうか？
眩しい光にさそわれて、姫凜は目をうつすらと開いた。

「ん…ここは？」

見慣れない植物が、辺りを覆っている。

「やっと起きたか…」

すぐ隣から低い声が聞こえて来た。大きく目を見開いて、声の主を確認する。

「貴方は…誰？」

「普通、相手に聞く前に自分から名乗るのが礼儀だろうか？ 異世界のお嬢さん」

「え…？」

彼の言葉に、姫凜は驚きを隠せずにいた。彼の褐色の肌、漆黒の髪に同色の瞳。

「見ればわかるさ。この世界の人間は、肌の白い人間はいないからな」

「……………」

「安心しろ。お嬢さんを取って喰うつもりはないから。もう少し休んだら、村に行くからな」

「……あたし、佐久間姫凜。貴方は？」

「はあ…話し、聞いてたか？ お嬢さん。ま、いいや。俺はマジエステイってんだ」

漆黒の瞳が優しく微笑む。見た目は怖そうだが、優しくそんな人物であることを確認出来て、姫凜は内心ホッとしていた。

「村って、ここから近いんですか？」

「ん？ まあ、そう遠くはないと思うが…」

言葉を濁すマジエステイに、姫凜は首を傾げた。だが

「気にしないで、もう少し寝ろ」

と、言われて姫凜は、渋々眠りについた。

異世界の救世主よ…

今しばし、目覚めよ…

「救…世主？」

無意識に紡ぐ言葉。辺りを見渡すと、マジエステイも眠りについていた。

「救世主って…なんだろ？」

「メシアの事だろ？ 異世界からきた、救世主…」

「……………」

「まあ、休んだ事だし、そろそろ出発するぞ」

火の後始末をして、荷物をまとめ始めた。見る限りでは、逃走の荷造りしているようにも見えた。荷物をまとめ終えると、それを持ち上げて、マジエステイは、姫凜に着いてくるように促す。

「村はどんな所なんですか？」

「ああ、緑が豊かだ。それに救世主に為るための、清めの湖もある。そこで洗練を承けて、メシアになるんだ」

頭を抱え込んでしまった姫凜。しかし、マジエステイは涼しい表情で、それを眺めるだけだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5605b/>

異世界の彼方で...

2011年1月13日02時17分発行